



令和3年度 滝上町立濁川小学校 グランドデザイン

学校経営の基本方針

- ・常に子どもの側（発達段階、個々の実態、本校の課題などをもとに、子どもに育成すべき力）にたった教育活動の推進にあたる。
- ・教育公務員として、公教育の理念を踏まえ、目標や情報を共有しながら協働して経営推進にあたる。

【目指す学校像】

- 子どもにとって「学ぶ楽しさを実感できる」学校
- 保護者にとって「安心して子どもを任せられる」学校
- 地域にとって「“学校のために”と力をかしてもらえる」学校
- 教職員にとって「やりがいのある、挑戦できる」学校

【学校教育目標～子どもに育みたい力（ビジョン）】

心豊かで たくましく 進んで行動する子

「夢いっぱい」 ・めあてと見通しをもち、筋道を立てて考える。 ・学ぶための基礎・基本をしっかり身に付ける。 <自ら進んで学ぶ>	「愛いっぱい」 ・互いの個性を認め合い、仲良く学習や遊びをする。 ・場や相手を考えた正しい言葉遣いをする。 <心豊かで>	「力いっぱい」 ・自分のめあてに粘り強く最後まで取り組む。 ・楽しく運動や体力づくりに取り組む。 <たくましく>
---	--	--

【成果○と課題●（学校アンケートより）】

- 目標をもって学習に取り組んでいる。 90%
- 自分から進んで宿題や家庭学習に取り組んでいる。 93%
- きまりや約束などルールを守っている。 90%
- 自分から進んで、他の人と仲良くすることができる。 96%
- 学校以外でも本を読んでいる。 78%
- 自分の考えを分かりやすく発表したりまとめたりする。 78%
- 相手や場に応じた挨拶や返事、言葉遣いをする。 78%
- 目標をもって運動している。 78%
- 早寝早起きなど規則正しい生活をしている。 75%

【校内研修】

- 主題「学び方を身に付け、意欲的に表現・伝え合うことを通し、学びを深める子どもの育成」
- ～少人数・複式学級における算数科の授業づくりを通して～

【今年度の重点教育目標】

心豊かで たくましく 自ら進んで学ぶ児童の育成

～主体的に達成感を味わわせる～

- ◇学習のねらいを明確にする学習課題の設定
- ◇直接・間接指導での教師の関わり方の工夫
- ◇「伝えること」を前提とした書く活動の設定
- ◇様々な思考方法、表現方法の習得と活用の場の充実
- ◇情報や互いの考えを共有、理解しあえる場の設定 等

<基礎・基本の定着>

- ◎自分から課題を見付け、教科の学び方を生かすことができる。
- ◎見通しをもち、知識や技能を関連付けながら解決策を考えることができる。
- ◎多様な方法で、考えを表現したり、互いに伝え合いながら、自他のよさに気付いたり、考えを深め広げたりできる。

【「令和の日本型学校教育」の構築 R3.1.26 中教審答申】

- 個別最適な学び：ICTの活用、家庭学習との連携
 - ・指導の個別化～子の特性や学習進度に応じた柔軟な指導
 - ・学習の個性化～子の興味・関心等に応じた学習活動等
- 協働的な学び：発表や交流の場の保障
 - ・子ども同士、多様な他者等との学び合いの充実

【濁川小学校として取り組む「これだけは」】

- 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善・研究実践～複式・算数科の授業を通して
 - ・学習の流れの徹底 ・教科書を中心に据えた、児童自身が主体的に課題解決に取り組める学習内容～「自学の術（個別最適な学び）」
 - ・交流を通じた「自分の考え・学び」の深化～協働的な学びの場を保障する。
 - ・「課題・考察・まとめ」を基本としたノート指導を徹底し、個人でも学習が進められる力を身に付ける。
- 適切な「目標の設定」と他との「共有」、教育活動での「振り返り」と「目標等の見直し」の位置付の徹底～自ら学ぶ力の向上
- 授業及び生活の改善に向けた実態の把握と家庭との情報共有
- 読書活動の充実～「読む」ことを通して
- たくましい体づくり～体育授業の工夫改善（発達段階に応じた授業改善）、学級や学校で挑戦する継続的な運動の工夫と充実
- いじめを生み出さない学校づくり～「特別の教科 道徳」と日常的な道徳的指導の充実、児童会や縦割り等、異学年での活動の工夫

【評価指標～学校アンケート、学力・学習状況調査質問紙、体力テスト等】

- 上記【成果】の維持または昨年度以上
- 「自分の考えを分かりやすく発表したりまとめたりする。」を80%以上
- 「学校以外でも進んで本を読んでいる。」を80%以上
- 「目標をもって運動している。」を80%以上
- 「いじめはよくない」を100%継続
- 全国学力学習状況調査、学力テストで全国平均以上
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査で全国平均以上

【チーム濁川小学校～チーム・ネットワーク】

- 組織力の向上
 - 1) 校務分掌の統合と業務の精選、教職員全体の関りをさらに深める。
 - 2) 「子どもに育みたい力」を共有し、学年（発達段階）に応じたゴールを明確にする。
 - 3) 研究授業及び日常的な授業の様子を見合える体制づくりに努め、互いに学び合える環境をつくる。
- 地域の教育力を活かした活動の充実
 - 1) 教育課程における保護者や地域人材及びCS「人材バンク」の有効活用、地域教材の開発に向けた内容の精選と、適切な位置付けを図る。
 - 2) 学校だよりや学級通信、HPを活用した積極的な情報の発信と共有を図る。
- 働きがいのある職場づくり
 - 1) 子どもに向かい合う時間の一層の充実～教育活動の精選（教科との連携）、ICTの活用、研修への参加機会の向上 等